

大竹市における3歳児健康診査について

横山 大輔
古吉眼科医院 | 視能訓練士

はじめに

大竹市の場所は広島県最西端で山口県との県境に位置しています(図1)。人口は2023年12月時点で25,764人です。視能訓練士の3歳児健康診査への参加が始まったのは、2020年4月からになります。当院院長が小児科医を対象にスポットビジョンスクリーナー(以下、SVS)を使った屈折検査の重要性について講話を行ったことがきっかけとなりました。その後、行政との打ち合わせにより同市へのSVS導入が決まりましたが、操作方法や結果の見方等が健診担当の保健師ではわからないとのことで視能訓練士が参加することとなりました。現状、同市から当院に派遣依頼を受けて、視覚検査を行う視能訓練士は、筆者のみが任務に当たっています。

図1 大竹市の位置



3歳児健康診査視覚検査の対象および検査内容

大竹市の3歳児健康診査は3歳6か月の児に対し毎月1回、約20名が対象です。

視覚検査の内容は一次検査として各家庭での視力検査とアンケートの回答を行います。二次検査は健診会場で視能訓練士がSVSによる屈折検査、眼位、眼球運動検査を全員に行い、家庭で視力検査ができなかった児に対し視力検査の再検査を行っています。眼科ブースの写真を図2へ提示します。

図2 眼科ブースの様子



結果について

3歳児健康診査視覚検査および眼科精密健康診査の実施状況を表1に提示します。SVS導入前の眼科精密健康診査率が年間0~2.2%と低いことに対し、SVSの導入・視能訓練士の参加後には、眼科精密健康診査率が6%以上と上昇しました。要治療児についても視能訓練士参加前の6年間で1名でしたが視能訓練士参加後の3年間で7名と増加しています。

眼科精密健康診査の結果の内訳を表2に提示します。SVS導入後、遠視が最も多く7名、弱視が4名となっています。SVSの検査

可能児は2022年度までは100%で発達障害による多動児に対しても検査可能となり、保健師や保護者の方からは「眼科健診に行っても検査ができないと思っていましたが検査が出来て大変よかった」との声がありました。また、2023年度ではSVS測定時に縮瞳したまま瞳孔反応がなく、SVSが測定できない児がおりました。その際、早めの眼科受診をすすめた結果、眼科精密検査にてぶどう膜炎と診断され現在精査中です。

このように検査に慣れた視能訓練士が3歳児健康診査視覚検査に参加することにより、屈折検査が測定できない原因に繋がるような小さな変化に気づき早急な眼科精密健康診査をすすめることができた症例でした。

表1 3歳児健康診査視覚検査および眼科精密健康診査の実施状況

年度	対象者(人)	受診者(人)	健診受診率	眼科精密健診対象者(人)	眼科精密健診率	眼科精密検査受診者(人)	精密健診結果		
							異常なし	要観察	要治療
2014	231	208	90.0%	2	1.0%	1	1	0	0
2015	184	166	90.2%	2	1.2%	1	0	1	0
2016	233	226	97.0%	2	0.9%	1	0	0	1
2017	198	193	97.5%	3	1.6%	3	3	0	0
2018	200	190	95.0%	0	0.0%	0	0	0	0
2019	191	181	94.8%	4	2.2%	4	2	2	0
2020	138	133	96.4%	9	6.8%	8	2	5	1
2021	167	157	94.0%	10	6.4%	6	2	2	2
2022	232	224	96.6%	19	8.5%	13	2	7	4

※2020年度から視能訓練士参加
精密健診率=眼科精密健診対象者÷受診者×100

表2 眼科における眼科精密健康診査の結果

年度	対象者数	受診者数	結果			所見の内容(延数) (①及び②の内訳)					
			異常なし	要観察①	要治療②	遠視	近視	乱視	弱視	斜視	眼球運動障害
2014	2	1	1								
2015	2	1		1					1		
2016	2	1			1					1	
2017	3	3	3								
2018	0	0									
2019	4	4	2	2		1					
2020	9	8	2	2	1	2		1		2	
2021	10	6	2	2	2	3			1		
2022	19	13	2	2	4	2		4	3	2	

今後の課題

大竹市 3 歳児健診での今後の課題は、眼科精密健康診査の受診率の向上です。受診率が 2021 年度、2022 年度と 60% 代であり健診で異常の疑いを検出しても医療に繋がらなくては弱視や疾患を見逃していることと同じことだと考えています。受診率を向上させるため保護者の方にはゆっくりと丁寧な説明を心掛け SVS の結果も持って帰っていただいています。そうすることで保護者の方にも児の状態を確認いただけ、受診先の眼科への情報提供となっています。

最後に

今後も行政や 3 歳児健康診査に関わる方々と密に連携し、弱視等の早期発見早期治療につなげていけるよう日々精進していきたいと思えます。また自治体による健診格差が生じないよう、視能訓練士が参加する自治体が今後も増えていってほしいと願うばかりです。本レポートが、これから 3 歳児健診視覚検査に参加する、または参加を希望する視能訓練士にとって少しでも参考となれば幸いです。